

祝祭日には国旗を掲揚しましょう

敬神尊皇 黎



明報感謝

監修/日刊ひぐらし 〒151-0071東京都渋谷区本町1-30-18-107 http://www.higurashi.net/第0046号  
護國青年會議 http://www.gokoku.net/ 発行人/山本修三 編集人/戸出蒼流 平成20年2月29日

# 毒餃子とイージス艦、危うし日本の危機管理

## 陰でほくそえむ支那共産党

・月日は百代の過客にして  
行き交う人もまた旅人なり  
有名な芭蕉の「奥の細道」の  
一節だが、僅か数日間の報道  
を見ると、移り行く時の流れ  
を痛感する。

二月二十四日の朝刊各紙の  
一面トップを飾ったのは、日  
本では無罪が確定した二十七  
年前に起きたロス疑惑事件の  
三浦和義元被告がサイパンで  
逮捕されたということだった。

一日前までは千葉県野島崎  
沖のイージス艦と漁船の衝突  
事故の報道が連日一面に取り  
上げられた。そして、ふと気  
がついてみると、支那製の毒  
入り餃子に関する報道は紙面  
の片隅に追いやられ、もしく  
は消えてしまっていることに  
今更ながら驚嘆する。不謹慎  
な言い方になるかも知れない  
が、支那当局は野島崎沖の事  
故のお蔭とほくそえんでいる  
のではないだろうか。

日本側が餃子に混入してい  
た毒物に関して「日本で混入  
された可能性は少ない」と発  
表したことに、支那共産党は  
強い不快感を表明した。つま  
り、支那は「(毒物は)日本で  
混入された」と主張している  
のだ。この暴論に対して、日  
本の政府とマスコミは猛烈に  
反論するのかもしれないが、そ  
の関心はイージス艦の事故へ

と移行してしまった。これ  
は支那が欣喜雀躍するのは当  
然である。

支那の毒入り餃子が明るみ  
になった時、筆者は「食品を  
使った支那のテロだ」と友好  
団体のホームページに投稿し  
たことがあるが、この見解は  
今も変わらずに持ち続けてい  
る。



昨年、自らの不正を棚上げ  
して「客が安いものを求める  
から・・・」と嘯いた北海道  
の肉屋がいたことは、記憶に  
新しい。

安物買いの銭失いという言  
葉があるが、これは購買意欲  
を駆り立てるための宣伝文句  
に煽られ、不要なものまでも

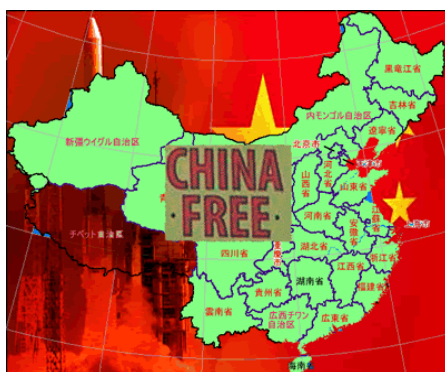
買ってしまう無駄を戒める為  
の警句である。無駄になるだ  
けなら、良い教訓として同じ  
過ちを繰り返さなければ済む  
話であるが、相手が支那とな  
ると、失うのは金銭だけでなく  
健康や生命だということをも  
肝に銘じなければならぬ。

米国の提灯持ちをする気は  
さらさら無いが、米国産牛肉  
に対して、あれ程過敏な反応  
を示すなら、異常なまでの環  
境汚染の中で作られる支那産  
食品、規則違反など何処吹く  
風の支那産食品、猛毒たっぷ  
りの支那産食品にこそ、より  
敏感になるべきである。

食品を利用した支那のテロ  
が判明してから約一ヶ月もの  
間、公表が伏せられてきたこ  
とは、マスメディアの支那報  
道の怠慢によるものだ。これ  
までも支那が絡んだ事件とな  
ると、妙に報道を控える傾向  
にあったが、今回もこのよう  
な悪しき前例が作用していた  
ことは明白である。仮に政府  
や行政機関の要請があり、報  
道を意図的に遅らせていたな  
らば、その罪は計り知れない  
ほど重い。

を強く認識すべきである。

**厚顔無恥な支那人の体質**  
毒餃子の製造元である天洋  
食品の底社長は、生産過程で  
メタミドホスが混入した可能  
性はないとの見解を示すと  
もに「今回の事件の最大の被  
害者は我々だ」と述べ、さら  
に日本に対して賠償請求も検  
討している。多くの日本人を  
死の恐怖に陥れたことは事実  
であり、まず謝罪するのが当  
然だが、相手に責任をなすり  
つけ、自らは被害者を装い、  
賠償請求するのは犬畜生にも  
劣る行為である。



大気汚染や水汚染など支那  
を取り巻く環境を考えると、  
支那が関わる食品を口にす  
ることは自殺行為に等しいが、  
危機管理能力が欠如している  
ポン助がリーダーである限り  
国民の一人一人が食の安全と  
いう問題について真剣に考え  
直すべきだと考える。

編集人・戸出蒼流

# 納得いかない、イージス艦だけへの批判集中



## イージス艦と漁船の推定進路

二月十九日午前四時七分、千葉県南房総市の野島崎沖四十キロの海上で、海上自衛隊のイージス艦「あたご」・船渡健艦長」と千葉県勝浦市漁業協同組合に所属するマグロはえ縄漁船「清徳丸」が衝突し、清徳丸に乗っていた吉清治夫さんと長男の哲夫さんが行方不明となった。

海上を航行する船舶には海上衝突予防法という法律がある。それによると他船を右方に見た船舶に回避義務があり、速度を落としたり、進路を変更しなければならぬ。

左図からも分かるように清徳丸はあたごの右側を航行していた。つまり回避義務はあたごにあり、あたごが回避する義務はあたごにある。非難は免れないことである。

**的外れなイージス艦不要論**

予想通り、その日のうちに自衛隊バッシングが始まった。左巻きマスゴミや政治屋共はこれ幸いとばかりに言いたい放題である。今やバイ菌政党と成り果てた社民党の福島瑞穂は「そもそも日本がイージス艦など持つ必要があるのか」とイージス艦の必要性さえも否定している。世界中の国が日本のような民主的で紳士的な国ならば、然もありません。思うが、現実はそのようではない。社民党議員の祖国とも言える支那や北朝鮮、ロシア、韓国と反日国家に囲まれた日本が自衛のためにイージス艦を所持するのは当然のことである。

前述の海上衝突予防法によれば清徳丸の左側を航行していた「あたご」に回避義務があり、イージス艦は非難を受けて当然である。しかし海上衝突予防法には「いかなる船



## 海上衝突予防法の精神

日を追う毎にイージス艦、自衛隊、防衛省叩きはエスカレートしていった。新聞は連日、重箱の隅を突つつくが如く瑣末なことを引っ張り出して、防衛相の責任を追及している。テレビもまた、頓珍漢なコメンテーターの話を恰も国民の総意のように垂れ流している。確かに一家の大黒柱とその長男が事故に遭い、行方不明となった家族の心中を思えば言葉がでないが、果たして悪いのはイージス艦だけなのか、冷静に考えてみる必要がある。

もっと早く回避する方法は取

船も衝突を回避する最大限の努力をする」という予防法の精神とも言える一文がある。つまり一方的な追突事故でない限り、過失割合が一〇対〇ということは有り得ないことなのだ。報道を見る限りではイージス艦だけが悪いような論調だが漁船の方は何の責任もないのだろうか、聊か疑問が生じてくる。

イージス艦は野島崎沖四十キロを自動操舵中だったが、漁場を航行しているという認識があつたならば、目を皿のようにして見張る必要があつたのではないだろうか、衝突一前になつて初めて回避行動を取つたということだが、それまでの時間いったい何をしていたのだろうか、気の弛みと驕りからくる職務怠慢だと言われても返す言葉も無いだろう。

のだろうか。 戸出蒼流

同じことは漁船側にも言えることだ。自分の船よりも遙かに巨大な船だということは、イージス艦の見張りが漁船に気づくよりも早くその存在に気がついた筈であり、一定の速度で直進しているイージス艦と自分の船の航路が何処で交差するかということも推定できた筈である。普通ならばこんな巨大な船舶と間近で遭遇すれば、引き波に翻弄される危険も考えられるのだから、

なかつたのだろうか残念でならない。行方不明の親子を叱咤する気も、イージス艦を庇う気持ちもさらさら無いが、双方が「いかなる船舶も衝突を回避する最大限の努力をする」という予防法の精神を則つた行動を取つていれば今回のような痛ましい事故は未然に防げた筈である。

**露呈された国防意識の欠如**

今回の事故の相手が、爆薬を満載した漁船に偽装した工作船だつたらどうなつたのだろうか。日本が誇るイージス艦がたつた一隻の偽装漁船に撃沈されるといふ無様な結果を招いたこととなる。

かつて米国の空母が、ペルシャ湾で上空を通過しようとした民間旅客機を撃墜したことがある。旧ソ連は、無断で自国領空に侵入しようとする航空機を、核が搭載されているかも知れないという理由で警告無しに撃ち落とすことを常とした。両国は最悪の事態を想定してそれを防ぐ為の措置を躊躇うことなく実行したのである。両国には国家国民を守り、国防を担うという意識を持った組織の厳しさと非情さがあつた。今回の事故で日本政府は、その意識を微塵も持ち合わせていないことを図らずも露呈した。福田ポン助にそれを求めるのは詮無い夢なのだろうか。